

どんな注文にも 対応します

店内に入ると、色とりどりの花の香りが身体を包んでくれる。

「まちの花屋さん」として武



▲店主の山田博之さん(左から2番目)とスタッフのみなさん。いつも明るい対応を心がけているそうで笑顔で相談にのってくれるのが嬉しい。花のプロとして頼りになる存在だ。

雄の人々に親しまれてきた山田花屋は1954年の創業。およそ60年にわたって、入学式や卒業式、成人式や冠婚葬祭といった人生の重要な節目を彩ってきた。

現在、店主を務めるのは、

3代目の山田博之さん(45)。他店で修行を重ねて腕を磨き、時代のニーズもうまく取り入れながら精力的に店を切り盛りしている。

アルジャーノンに 花束を

山田さんは2日に一度、佐賀市にある花き市場へ仕入れに向かう。朝7時から開かれる競りに参加するためだ。

「きれいな花を見られる仕事なので楽しいです」と語る山田さんだが、実際の花屋の仕事はなかなかハード。植物は水気を多く含んでいるため束になるとかなりの重さになり、運ぶのには一苦労するという。

また、バラなどは次々に新品种が登場するため、少しでも珍しい花を入荷できるように勉強も欠かせない。市場では生産者と常にコミュニケーションをとって情報収集もする。知力・体力双方ともに充実していなければ務まらない仕事である。

一方で、山田さんがモットーにするのは明るい接客だ。「子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄れる花屋であり続けたい」と言う。

プロの技術が光る

そんな山田さんの想いが形になったのが、武雄中学校の「光庭」を飾る花々。ちょうどバレンタインが近かったこともあり、ハート形をモチーフ

にしたディスプレイを提案したそうだ。

パンジーやポリアン・ジュリアンが彩りを添える光庭は大好評だそうで、休み時間には自然とここに足を運ぶ生徒が増えたという。

学校生活に潤いをもたらす新スポットの実現に貢献した山田花屋。これからも地域密着の花屋として、武雄の人々の生活を彩ってほしい。



▲武雄中学校の中庭を飾る花々は山田花屋が手がけたもの。新たな交流の場として、訪れる生徒や先生が絶えないという。